

名 称	熱塩加納体験活動ボランティア活動支援センター (平成20年4月から熱塩加納公民館)
所在地	〒966-0192 福島県喜多方市熱塩加納町相田字大森5000番地
連絡先	TEL : 0241-36-2117 FAX : 0241-36-2478 URL : http://www.city.kitakata.fukushima.jp/

地域の現況・特色

活動対象地域の人口 喜多方市熱塩加納町 約3,300人

本喜多方市熱塩加納町は、福島県の北西部に位置し、平成18年1月に喜多方市、熱塩加納村、塩川町、山都町、高郷村の1市、2町、2村が合併して生まれた新しい市の旧熱塩加納村分である。本町は喜多方市の北部に位置し、面積の約90%を山林が占め、山形県境に接した山間の町である。

豊かな自然環境に恵まれ、農業が主な産業であり、稲作をはじめ、アスパラガス、そば等の作付けが多い。

人口は年々減少しており、いわゆる「過疎」の地域であるが、地域の活動は活発で、特に高齢者の活躍が大きく、子どもたちとの交流がある各種行事、ボランティア等への協力を頂き、地域づくり人づくりに貢献している。

事業の名称、活動概要

名称 そばの一生体験

「そばの一生体験」と称し、そばの種蒔きから始まり、そば打ちをして食べるまでの体験を通し、地域の農業、食文化の伝承、食べ物の大切さ、農作業による体力づくり、講師、ボランティアの方々異世代との交流等様々な効果を図り、力強い心豊かな子どもたちを地域全体で育てていくためにこの事業を展開した。

事業の実施に至る背景、連携・協働のねらい

食べる物に事欠かず、ものの大切さ有難さが失われている現代において、子どもたちは、今食べているものがどのようにして出来ているかも知らずにいる。その過程を自ら体験す

ることにより、ものづくりの苦勞、喜び、感動を覚え、人が生きる基本となる考え方を育成したいと考えた。

また、様々な体験について、社会福祉協議会、体験活動・ボランティア活動支援センターとの連携を図り、民生児童委員、地域ボランティアの多大なる協力が得られ、地域の教育力の育成や、互いに活動のステップアップが図られ、今後の活動に役立つと思われる。

事業の内容

① 事前準備として行った取組（企画段階）

公民館と、講師でもある民生児童委員の方と事業内容を検討し、そこで必要となるサポート内容を考え、それに必要な民生児童委員、地域ボランティアの方々の確保、及び学校行事等と重複しないような開催日の調整を、本支援センターコーディネーターが対応した。

特に、事業対象者の小学生へはPTA総会、学習発表会等の場を活用して、前事業の活動報告や、事業のPRを行った上で、小学生ばかりではなく、先生、保護者への積極的な参加も呼び掛けた。さらには、公民館事業へ参加してくる子どもたちにも、個別に参加を呼び掛けた。

② 活動の展開内容（活動段階）

『そばの一生体験』は、「そばの種蒔き」、「そばの花見」、「そばの収穫」、「そば打ち体験」の4回、体験活動を実施した。その他に関連した事業として、ジャガイモと大根の種蒔きから収穫前までの作業を、ボランティアの方々の協力を得て実施した。

参加者の募集については、学校の協力と、コーディネーターの呼び掛けにより実施し、ボランティアの連絡調整については、コーディネーターが中心になり実施した。

各事業の概要は次のとおりである。

○「そばの種蒔き」

講師が耕作している山間の畑において実施した。参加者には今後の事業の計画を説明し、講師とボランティアの方よりそばの種蒔きに関する説明を聞いてから、前もって耕してある畑に、肥料とそばの種を手で蒔いた。また、ボランティアの協力により育てたジャガイモを掘る体験も同時に実施した。小学生、ボランティアを含め約30名が参加した。



【 種蒔き 】



【 種蒔き（ジャガイモ掘り） 】

○「そばの花見」

種蒔きを実施した畑において、そばの花の観察を実施した。花の形、匂いなどを観察しそばの生育を見守った。また、会場を変えてそば粉を使った料理体験も実施し、そば粉入り団子汁、そばがき、そばのお好み焼きなどを作り、参加者全員で試食した。小学生、ボランティアを含め約30名が参加した。



【 花見 】



【 花見（料理体験） 】

○「そばの収穫」

順調に育ったそばを、講師、ボランティアの指導により、稲刈り鎌を使い手刈りにより行った。計画では、収穫後、棒打ちによる脱穀とふるいによるごみ取り等も予定していたが、悪天候のため刈り取りのみで終了した。小学生、保護者、ボランティアを含め約30名が参加した。



【 そば刈り 】

○「そば打ち体験」

『そばの一生体験』の締めくくりとして、そば打ち体験を実施した。4つのグループに分けて、それぞれに講師の指導により実施した。また、打ったそばの食事会の際には、社会福祉協議会の協力のもと、一人暮らしの高齢者を招いて交流会を開催した。小学生、保護者、ボランティア、一人暮らしの高齢者を含め約80名が参加した。



【 そば打ち 】



【 そば打ち（交流会） 】

③ 連携・協働に当たってのポイント・留意点

社会福祉協議会、民生児童委員、地域ボランティア等多くの協力を得て実施している事業であり、連絡調整に多くの労力がかかり事前の段取りが重要となった。コーディネーターの負担が多く、公民館のサポートも重要となった。

連携の流れは特に問題もなくスムーズに行うことができた。ただ、それぞれの立場による意見の違い等があったが、連絡調整、協議のうえお互いに理解された。コーディネーターが核となり、橋渡しとなって動いていることが最も重要であると思われる。

事業の成果と今後の課題

本事業は、今年で5年目を迎え、今までの実績、協力、連携づくり等により事業体制については、十分確立していると思われる。今後も要望が強く実施していく予定ではあるが、ボランティアについては、核となる方がいなく、組織化されていない。コーディネーターの負担軽減のためにもボランティアの組織化が望まれる。事業の具体的内容については、マンネリ化気味であり再検討が必要である。

この事業により確立できた協力体制について、公民館、生涯学習事業についても活用し様々な場面で地域の連携が見られる事業を展開したい。

執筆者職・氏名：喜多方市熱塩加納総合支所

教育課生涯学習係 主査 澤井 康人

コーディネーターからの一言コメント

地域を知る地域教材の開発は重要である。目標到達を目指した計画的取り組みの中に、体験活動、目標達成の喜び、高齢者やボランティアとの交流など子どもの変化と成長が実感できる事業が並んでいる。イベント的でないのがいい。今後のコーディネーターの活躍、ボランティア指導者の確保に期待したい。

(坂東 侑司)